学校心理士会神奈川支部ニュースレター

2018 年 10 月 21 日発行
発行責任者　岡田守弘
　　芳川玲子
〒259-1292
平塚市北金目 4-1-1
東海大学文学部心理･社会学科
「芳川玲子」研究室

第 24 号

巻 頭 言　インクルーシブな学校と学校心理士

1994 年、「万人のための教育（Education for All)」の目的をさらに前進させるために、ユネスコとスペイン政府によって組織された会議で「サラマンカ宣言」が出されました。その中に、「このインクルーシブ志向をもつ通常の学校こそ、差別的態度と戦い、すべての人を喜んで受け入れる地域社会をつくり上げ、インクルーシブ社会を築き上げ、万人のための教育を達成する最も効果的な手段であり、さらにそれらは、大多数の子どもたちに効果的な教育を提供する」と書かれています。多様な人々が共に生きる社会が、万人にとって暮らしやすい社会であるかどうかは、特別な教育的ニーズを持つ子どもたちが社会で、地域で、学校で排斥されず、「共に学び共に育つ」ことが実践されているかどうかが一つの指標になると考えます。

神奈川県は、高校におけるインクルーシブ教育を推進すべく取り組み、知的障害者のある生徒に高校教育を受ける機会の拡大を進めてきました。パイロット校３校に入学した１期生は現在２年生となり、学ぶことに意欲を持ち、部活動を楽しんでいます。県はこの秋に、インクルーシブ教育実践推進校を増やし、県下の各地域から通学できるようにします。今年の３月に告示された高校の学習指導要領では、高校における通級制度について書かれています。

サラマンカ宣言が出されてから４半世紀が経ち、インクルーシブな学校風土も育ってきていますが、高校で知的障害のある生徒が共に学ぶことや、通級制度を受け入れていくことに高校の教員は多くの戸惑いを持っていると思います。未知のことが多く、コンフリクトを生じさせます。「インクルーシブ教育システムにおける通常の学級の教員の資質・能力」の研究（特総研 H23～24）では、「自分の授業や指導の幅を広げることができる」「同僚の教員と協働することができる」「保護者の相談に応じ、保護者と協働することができる」の３点が挙げられています。これはすべての校種における資質・能力ですが、高校の教員はこれまであまり意識したことのない分野かもしれません。心理教育的援助サービスを担う学校心理士は、小中学校だけではなく、高校においてますます活躍が期待されます。

人と人を繋げる仕事は、継続的な取り組みです。「連続的で、多様で、柔軟な」教育の場が求められていますが、学校心理士の仕事にもこの３語は通じます。すべての子どもたちための教育が少しずつでも根付くよう、これからも粘り強く協働していきましょう。

（神奈川支部役員　奥村美由）

平成 30 年度神奈川支部総会　報告

今年度の神奈川支部総会は、６月 17 日（日）14 時より神奈川県民ホールの大会議室で開催され、１３６人（学校心理士１２６人、一般１０人）の参加がありました。

総会に先立って、岡田支部長からの挨拶では、公認心理師の国家試験の動向についての情報提供がありました。「教育に強い心理職　心理に強い教育職」たりうる学校心理士の果たすべき役割についてしっかり検討していきたい、というお話が印象的でした。また、芳川副支部長から、ＩＳＰＡ２０１８Ｔｏｋｙｏ（国際学校心理学会の 2018 年度東京大会）についての情報提供もありました。

総会は、末岡洋一氏に議長をお願いして進行しました。第 1 号議案「平成 29 年度事業報告並びに決算・監査報告」、第 2 号議案「平成 30 年度事業計画並びに予算案」について、いずれも拍手多数で承認されました。また、「その他」として、神奈川県支部 20 周年記念行事について役員会で検討を進めており、まもなく会員の皆様に提案させていただくので、もうしばらく時間をいただきたいとの報告がありました。

【参考】

１．平成 29 年度事業報告

（１）総会　　第 19 回総会　平成 29 年６月 18 日　ウィリング横浜

（２）研修会

・第 45 回研修会　平成 29 年６月 18 日　ウィリング横浜
（2017 年度春季南関東ブロック研修会）
テーマ「学校教育相談の役割と展望～未然防止の学校教育相談～」
講師：加勇田　修士　先生（東星学園教育顧問・ガイダンスカウンセラー）

・第 46 回研修会　平成 29 年 10 月 22 日　ユニコム相模原
（2017 年度秋季南関東ブロック研修会）
テーマ「学校心理士として知っておきたい学校危機管理
～東日本大震災の経験に基づく今からの対応～」
講師：我妻　則明　先生（前岩手大学教育学部教授）

・第 47 回研修会　平成 30 年２月 18 日　ウィリング横浜
テーマ「スクールソーシャルワーカーの考え方と、その実務」
講師：星　操　先生（藤沢市スクールソーシャルワーカースーパーバイザー）

２．平成 30 年度事業計画（研修会）

・第 48 回研修会　平成 30 年６月 17 日　神奈川県民ホール
テーマ「思春期のメンタルヘルス～青少年・若者の自殺について～」
講師：張　賢徳　先生（帝京大学溝の口病院精神神経科科長）

・第 49 回研修会　平成 30 年 10 月 21 日　ウィリング横浜
テーマ「ソーシャルスキルトレーニングについて（仮）」
講師：渡辺　弥生　先生（法政大学文学部教授）

・第 50 回研修会　平成 31 年２月 24 日　ユニコム相模原
テーマ「　未定　」
講師：未定

第４８回研修会報告

日時　2018 年 6 月 17 日（日）
場所　神奈川県民ホール

「思春期のメンタルヘルス」　～青少年 ･若者の自殺について～

講師：張　賢徳　先生
（帝京大学医学部教授・溝の口病院精神神経科科長・日本自殺予防学会理事長）

張先生の講演では、「自殺の 98 年問題」と呼ばれる状況についてのお話から、現代の日本の若者心理と日本の文化社会的風土等について解説していただき､子どもの自殺の予防のために、生徒・学生のメンタルヘルスリテラシーを高めることが必要である、ということについて多くの御示唆をいただいた。

子どもの「死にたい」という発言は､「死にたいほどつらい」という心のＳＯＳである。学校教育では、そのＳＯＳを発しやすい環境づくりを行うことが大切である。学校心理士はＳＯＳを最初に受け止める「ゲートキーパー」である。「ゲートキーパー」にはＴＡＬＫの原則で対応することが求められる。すなわち、子どもの落ち込みや不調に気付き、言葉に出して心配していることを伝え(Tell)､「死にたい」という気持ちについて率直に尋ね(Ask)、絶望的な気持ちを傾聴し(Listen)、安全を確保する(Keep safe)ことである。学校は生命を大切にするコミュニティーであり、「命の大切さ」を伝える学校教育であってほしい。

15 歳の生徒を対象としたＥＵ10 か国での研究では、「教師にゲートキーパーのトレーニングをする」あるいは「生徒をスクリーニングし、ハイリスクな生徒を医療機関につなぐ」という対応よりも､「メンタルヘルス全般の向上を目指した健康教育を実施する」ことが自殺企図の防止に効果的であったという結果が出ている。自傷行為は救いを求める叫びである。その背後には精神障害が存在することが多いので､精神科の医療への紹介と同時に環境調整が必要であり、精神保健福祉センターや児童相談所に相談することも大切である。また、模倣や群発を防ぐ対策を講じなければならない。

学校の教育全体にメンタルヘルスリテラシーを位置付け、高めることが大切である。
それに、日本の伝統的な良いものを「＋α」していくことが適切と考えている。

本の紹介

「県立！再チャレンジ高校　生徒が人生をやり直せる学校」黒川祥子［著］
講談社現代新書　2018 年 4 月 19 日発行　定価 880 円（税別）

小学校・中学校では「うまくいかなかった」子どもたち―そんな彼らのために設立された“やりなおしの高校”（再チャレンジができる学校）で繰り広げられた教師と生徒の葛藤、魂のぶつかりあい…。日本に本当に必要なのは進学校だけじゃない。苦しい生徒に寄り添い続ける、こんな学校なんだ！かつて「底辺校」と呼ばれていた高校を「生徒の居場所となる学校」に変えていく― すべては教師たちの情熱から始まった。実話を元に描いた感動の物語です。

日本学校心理士会 2018 年度大会 レポート

◇期日　2018 年 7 月 27 日（金）28 日（土）
◇会場　東京成徳大学
◇大会テーマ　「生涯にわたる幸福をめざし、子どものレジリエンスを高めよう」

ISPA2018 は初めての国際大会。しかも学校心理士会と学校心理士学会のコラボという画期的な大会が無事終了しました。会場には様々な言語が飛び交い、いつもの全国大会より華やかな印象を受けました。会場の東京成徳大学は石隈先生、田村節子先生らのお膝元、大会に向けての意欲は相当のものがあったと思います。会場もきれいできめ細かい配慮が行き届き、快適な大会であったと思います。石隈先生もそろいの青いＴシャツ姿で張り切っておられました。

さて私は最終日(7 月 28 日(土))の企画シンポジウム「学校心理士による学校経営」の指定討論者として参加いたしましたが、なんと台風の直撃。絶対晴れ男であるはずの私としたことがどうしたことでしょう。各シンポジウム会場は 150 人程度の教室なのですが、当然ながらテーマによって参加人数には偏りが生じます。このテーマではさすがに管理職の方や教育委員会の方に参加者が限定されると思いましたが、およそ 40 人程度の参加があり、アットホームな雰囲気でシンポジウムを進めることができました。本支部の大里先生から小学校のお立場で、横浜市の川村先生からは中学校のお立場で、さらにつくば国際大付属の横島先生が高校のお立場、私は特別支援と各校種がそろい、それぞれの実践を熱く語っていただきました。

これも予想されたことでしたが、短い時間では学校心理学を生かした学校経営の話が語り尽くせるわけもなく、時間が押せ押せになってしまいフロアからの発言がほんの 1, 2 名からしか拾えなかったり、せっかく準備いただいた各シンポジストのまとめに十分時間がとれませんでした。これはひとえに進行役の私のせいです。でも参加の皆さんは、各校種ごとの生のお話が伺え、学校経営や学級運営に参考になるヒントはたくさんあったはずと考えております。

参加いただいたシンポジストの皆様、参加者の皆様どうもありがとうございました。

（神奈川支部役員　田村順一）

お知らせ

■日本学校心理士会 2019 年度大会について

来年の大会は千葉支部が主管となり、８月 17 日（土）～18 日（日）に千葉県松戸市にある聖徳大学で開催されます。大会テーマは「公認心理師誕生の中での学校心理士の役割」です。千葉県と聞くと「少し遠いかな」と思われるかもしれませんが、ＪＲ松戸駅は東京駅から 31 分、会場の聖徳大学は松戸駅から徒歩５分の立地です。どうぞ今のうちから、参加をご検討ください。

［編集後記］大会レポートにもある通り、日本学校心理士会 2018 年度大会は、日本学校心理学会第 20 回大会とともに国際学校心理学会（ISPA）に包含される形で開催され、盛会のうちに閉幕しました。７月 27 日（金）19:00 より行われた情報交換会（懇親会）は神奈川支部が担当し、趣向を凝らしたプログラムで大いに盛り上がりました。他支部からも、神奈川支部の結束力に賛辞の言葉が多数寄せられました。ご参加された方は、懇親会も含め大会に関する感想等をぜひ編集部までお送りください。

ryoshi@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp（編集部）